

【第2回 兵庫県水道事業のあり方懇話会資料より】

市町水道事業の地域別課題と検討方策について

① 地域別の見通しと課題

現 状

- 人口減少率は地域間で格差
神戸・阪神：約10%
但馬・丹波・淡路：約30%
- 経営状況(今後10年)は悪化
都市部：人口減により減収
都市近郊：人口減により大きな減収
中山間部：人口減により深刻な減収
- 老朽化への対応、耐震化が増大
神戸・阪神：老朽化が顕著
耐震化が必要
北播磨・但馬：今後老朽化が増大
施設効率が低い
- 職員の高齢化、専門職不在
神戸・阪神南：40代以上が大半
それ以外：ほとんど40代以上
専門職の確保が困難

課題抽出

都市部型 (神戸、阪神南など)

- ・わずかながらも人口減少
- ・施設老朽化への対応
- ・大規模地震への対応

都市近郊型 (西播磨、北播磨など)

- ・人口減少が大きい
- ・安定した経営基盤の確保
- ・施設効率が悪い
- ・技術力、専門力の確保

中山間部型 (但馬、丹波など)

- ・人口減少が深刻
- ・経営基盤の強化
- ・今後増大する更新需要
- ・連携困難な地形
- ・小規模集落への給水

② 地域別の検討方策

分類	顕著な傾向	検討の方向性	方策 (案)
都市部型	<ul style="list-style-type: none"> ●わずかながらも人口減少 ●施設の更新需要が増大 ●大規模災害への対応が急務 等	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の共同利用 ●業務の共同委託 ●危機管理の連携 ●情報の共有化 等	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 施設の共同化 ➢ 管理の一体化 等
都市近郊型	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少が大きい ●経営基盤が脆弱 ●施設効率が悪い ●技術力・専門力が不足 等	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の共同利用 ●業務の共同委託 ●危機管理の連携 ●情報の共有化 ●持続可能な経営基盤の確保 ●技術面での支援 等	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 施設の共同化 ➢ 管理の一体化 ➢ 経営の一体化 ➢ 事業統合 ➢ 技術支援方策 等
中山間部型	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少が深刻 ●一般会計からの支援なしに経営が成り立たない ●地理的要因から周辺自治体との広域連携が困難 等	上記に加えて、 <ul style="list-style-type: none"> ●新たな財政措置 ●小規模水道への対応 等	上記の対策と併せて、 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新たな財政制度の創設に向けた働きかけ ➢ 小規模集落への給水のあり方 等

※ これまで2回のあり方懇話会での各委員からのご意見等(資料1参照)や座長コメント「各地域が抱える傾向に応じた対応方策案を提案できるように作業を進めたい」を踏まえ、市町ごとの給水実態に即した多様な検討が必要なことから、『広域連携・財政支援・技術支援等』について、地域課題に即した方策(案)に基づいて、分類別市町グループの協力を得て、議論した結果、より細かな個別・具体的な対応案として列挙し、各事業体において、使い勝手の良い選択ができるような形の資料づくりを事務局で行った。